

平成27年度黎明館企画特別展

「SHOWA. 39～64 —語り継ぐ記憶—」 実施報告

学芸専門員 吉井 秀一郎

Key Word：黎明館 SHOWA. 39～64 語り継ぐ記憶 東京オリンピック

はじめに

当館では、毎年秋に自主企画による黎明館企画特別展（以下：企画特別展）を開催してきた。そして、本年度は、平成27（2015）年が、戦後70年の節目の年に当たるため、昭和時代をテーマとして取り上げ、東京オリンピック以降の人々の暮らしの変化や流行などに焦点を当てた展示を行った。

開館以来、この時代をテーマとした企画特別展の開催は初の試みであり、この時代の資料を扱う展示ならではの課題が発生する度に、その都度解決しつつ準備を進め、約1ヶ月間の会期を終了した。

そこで、本企画特別展について準備段階から振り返り、過去のアンケートから見えてきた傾向と課題、課題達成のための取組と成果について記すこととする。

第1章 企画特別展のねらい

今回の企画特別展を開催するに当たり、4つのねらいを定めて準備を進めた。

- 1 吉見俊哉（東京大学大学院情報学環教授）氏が『ポスト戦後社会』（岩波新書）の「はじめに」で、「本当に戦後が失われていったのは70年頃だとすることもできるだろう」と述べているように、「ポスト戦後」への扉を開け始めた昭和30年代の終わり頃からの日本社会の変化を、人々の暮らしの変化と流行からたどる展示は、社会の様々な変化の過程を知る上で重要であると考え。
- 2 過去の企画特別展で一度もテーマとして取り上げていない昭和時代、その中でも社会や人々の暮らしが大きく変化し、戦後の復興の象徴とされた昭和39（1964）年の東京オリンピックから、昭和64（1989）年の昭和の終わりまでを中心に民俗部門から取り上げ、人々の暮らしの変化や流行に焦点を当てた展示を行う。
- 3 戦後の日本は持続的な経済成長を遂げ、経済大国として発展した。その昭和30年代から60年

代の暮らしや流行を，昭和を生きた人々は懐かしく感じ，平成生まれの若者はレトロ感あふれる「おしゃれ」なものとしてとらえるなど，世代によって思いは様々である。昭和を若者（ヤング）として生きた世代が，平成を生きる若者に昭和の暮らしや流行を語り継ぐことができる展示を行う。

- 4 他県と同様に少子・高齢化が進む本県では，東京オリンピック以降の昭和時代と比べて，何が変わり，変わっていないのか知ることが，ますます重要となってくると思われる。観覧者が鹿児島の昭和について，次の世代へ語り継ぐことができる展示を行う。

第2章 企画特別展の概要

1 会場

黎明館2階 第2特別展示室（579㎡）

※ 文化財保護法第53条の規定に基づき承認された公開承認施設
博物館法第29条により指定された博物館相当施設

2 会期

平成27年9月11日（金）～10月18日（日）（実開催日数32日間）

休館日 9/14, 24, 25, 28, 10/5, 13

3 主催

「SHOWA. 39～64 実行委員会
－語り継ぐ記憶－」

（構成団体）

鹿児島県歴史資料センター黎明館

南日本新聞社

MBC 南日本放送

4 後援

鹿児島県教育委員会

鹿児島市教育委員会

NHK 鹿児島放送局

KTS 鹿児島テレビ

KKB 鹿児島放送

KYT 鹿児島読売テレビ

5 観覧料

一般800（600）円，高・大生500（350）円

中学生以下・障害者（要障害者手帳提示）無料

※（ ）内は，20名以上の団体料金，前売券料金

※ 県内の高校・特別支援学校の生徒とその引率者については，教育課程等に基づく学習活動として入館する場合は，観覧料免除（事前の申請が必要）

※ 障害者は，手帳の提示で観覧料免除（介護者1名も免除）

6 印刷物及び出版物

(1) ポスター（画像1）

(2) リーフレット（画像2, 3）

(3) 図録（画像4, 5）

(4) 観覧券

※ その他，黎明館だより「黎明」など黎明館刊行物

7 展示資料点数

約600点

8 関連行事

(1) 講演会（画像6, 7）

①

期 日 平成27年9月12日（土）

時 間 13：30～15：00

会 場 黎明館2階講堂（245席）

講 師 市橋 芳則 氏（北名古屋歴史民俗資料館（昭和日常博物館）館長）

演 題 「昭和の暮らしに「家電ブーム」の原点を見る

—K A J I家電とG O R A K U家電から昭和中期・後期を語る—

②

期 日 平成27年10月3日（土）

時 間 13：30～15：00

会 場 黎明館2階講堂（245席）

講 師 外木場 義郎 氏（元広島東洋カープ投手，プロ野球解説者，アマチュア指導者，
野球殿堂入り）

演 題 「私の野球人生一人との出会いが人生を決める—」

(2) 学芸専門員による展示解説講座（画像8）

期 日 平成27年9月20日（日）

時 間 13：30～15：00
会 場 黎明館3階講座室（80席）
講 師 黎明館学芸専門員 吉井 秀一郎
テーマ 「バブル世代が見たSHOWA.
—展示資料で検証するあの頃の記憶—」

(3) シンポジウム（画像9，10）

期 日 平成27年9月27日（日）
時 間 13：30～15：00
会 場 黎明館2階講堂（245席）
パネリスト

福司山 エツ子 氏（鹿児島女子短期大学名誉教授）
西之園 君子 氏（鹿児島純心女子短期大学教授）
福屋 利信 氏（山口大学教授）

テーマ 「大切にしたいSHOWA.
—お洒落・お食事・ミュージック—」

(4) 学芸専門員による展示解説（画像11～13）

期 日 平成27年9月19日（土），26日（土）10月3日（土），11日（日），17日（土）
時 間 14時から30分程度
会 場 企画特別展会場
講 師 黎明館学芸専門員 吉井秀一郎
◎ 講演会，シンポジウム，講座終了後には，展示場で展示解説を実施（60分程度）

9 展示構成（資料配置図，画像14～37）

序 章 再現！「オリンピック」を見た「お茶の間」／（団塊の世代少年期）

第1章 鹿児島からみた「東京オリンピック」・「日本万国博覧会」／（団塊の世代少年期・バブル世代幼年期）

第1節 聖火が郷土を駆け抜けた（昭和39（1964）年）

第2節 空にそびえる太陽の塔（昭和45（1970）年）

第3節 遠かったT O K Y O ・ O S A K A

第1項 憧れの0系！九州新幹線全線開業まであと47年（昭和39（1964）年）

第2項 C A（キャビン・アテンダント）ユニフォームでたどる憧れの空の旅
（昭和30年代～60年代）

第2章 マージー・ビートがやってきた！／（団塊の世代少年期～青年期・バブル世代幼年期～少年期）

- 第1節 マージー・ビートとグループサウンズ（昭和40年代）
 - 第2節 JOHNのギターはアメリカ製, 僕らのギターは日本製（昭和40年代～50年代）
 - 第3節 そして時代はフォーク・ソングへ（昭和40年代～50年代）
- 第3章 ヒーロー・ヒロイン大集合／（団塊の世代壮年期・バブル世代少年期）
- 第1節 「ベルばら」の世界（昭和49（1974）年～）
 - 第2節 おもちゃの世界（昭和40年代～50年代）
- 第4章 経済大国の繁栄／（団塊の世代青年期～壮年期・バブル世代少年期～青年期）
- 第1節 おしゃれ男子と日焼け女子（昭和30年代～50年代）
 - 第2節 インスタントな食品たち（昭和30年代～40年代）
 - 第3節 モデルカー！欲しかった車たち（昭和30年代～60年代）
 - 第1項 モータリゼーションを支えた軽自動車・大衆車（昭和30年代～50年代）
 - 第2項 乗りたかったスポーツカーなど（昭和40年代～60年代）
 - 第3項 カーブームの世界（昭和50年～60年代）
 - ① スーパーカーブーム（昭和53（1978）年頃）
 - ② ハイソカーブーム（昭和50年代後半）
 - ③ スペシャリティカーブーム（昭和60年代）
 - 第4節 みんなで遊んだ, ボードゲーム・テレビゲーム
 - 第5節 なつかしの家電大集合（昭和30年代～50年代）
 - 第1項 豊かさと家電の進化（昭和30年代以降）
 - 第2項 合体家電と呼ばれて（昭和50年代）
 - 第3項 家電に見える製品たち（昭和30年代～40年代）
- 第5章 郷土の星, アスリートに託した夢／（団塊の世代青年期～壮年期・バブル世代幼少
期～青年期）
- 第1節 南海の黒豹と横綱たち（昭和60年代）
 - 大関若嶋津の活躍と横綱北の湖・千代の富士との名勝負
 - 第2節 ON（王・長嶋）対CARP エースは薩摩隼人！（昭和40年代～60年代）
 - 外木場・北別府の活躍
- 終章 少し昔の鹿児島
- 太陽国体（昭和47（1972）年）
 - 初！甲子園ベスト4の夏（昭和49（1974）年）
 - 鹿児島高校総体（昭和57（1982）年）

その他

※ 提供を受けた、昭和30年代～60年代の郷土を写した画像・映像と、関連する資料を展示する。

10 借用先（15カ所）

(1) 関東

- ① おもちゃのまちバンダイミュージアム（栃木）
- ② 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館（千葉）
- ③ 公益財団法人日本相撲協会相撲博物館（東京）
- ④ 日本航空広報部アーカイブズセンター（東京）
- ⑤ 独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館（東京）
- ⑥ 公益財団法人野球殿堂博物館（東京）

(2) 中部

- ① 北名古屋市歴史民俗資料館（昭和日常博物館）（愛知）

(3) 関西

- ① 株式会社宝塚舞台（兵庫）

(4) 中国

- ① スマジ交通ミュージアム（広島市交通科学館）（広島）
- ② 外木場 義郎 氏（広島）
- ③ 北別府 学 氏（広島）

(5) 県内

- ① MBC 南日本放送（鹿児島）
- ② 南日本新聞社（鹿児島）
- ③ 鹿児島県総合体育センター（鹿児島）
- ④ 久保 克之 氏（鹿児島）

11 観覧者数

9,220人（有料観覧者5,989人：有料観覧者率 約65%）

第3章 資料調査

企画特別展は自主企画で実施しており、開催年度を含む3カ年で準備を進める。開催年度の春に実行委員会を立ち上げ、当館に実行委員会事務局を設置して準備に当たり、担当学芸専門員（以下：担当者）が開催年度を含む3カ年で、企画、資料調査・資料借用、講演会・シンポジウムの講師・パネリストへの依頼、ポスター・リーフレット原案の作成、図録原稿執筆、文書作成から発送、資料返却等の諸事を執り行う。

1 平成25年度資料調査（準備初年目，9施設）

平成25年度は，昭和時代を民俗部門から取り上げ，人々の暮らしの変化や流行に焦点を当てた展示を行うために資料調査を実施した。その結果，テーマとする時期を東京オリンピック以降の昭和時代に絞り込み，準備を進めることとした。資料調査開始前の段階では，戦前の郷土玩具や子どもの遊びに関連する資料の展示を含む構想を持っていたため，テーマとする時代を戦前を含む昭和時代としていた。しかし，資料調査の結果，戦前の貴重な郷土玩具等の資料からなる，当館所蔵の鹿児島県指定有形文化財「玩具コレクション」（以下：川邊コレクション）の質・量の充実ぶりを再認識する結果となった。川邊コレクションの展示は，「知られざる郷土玩具蒐集家の世界一県指定有形文化財『川邊コレクション』の人形たち―」（平成26年1月～5月実施）が好評で，期間中7,024人の観覧者にも恵まれた手応えもあり，将来的に川邊コレクションを含む全国の郷土玩具を一堂に集めた企画特別展が別途開催可能と判断し，今回の企画特別展には含めないこととした。

資料調査に御協力いただいた博物館等を以下に記す。

- (1) 壬生町おもちゃ博物館（栃木県下都賀郡壬生町大字国谷）
- (2) おもちゃのまちバンダイミュージアム（栃木県下都賀郡壬生町おもちゃのまち3丁目）
- (3) 野球殿堂博物館（東京都文京区後楽1丁目）
- (4) 相撲博物館（東京都墨田区横網1丁目）
- (5) 昭和日常博物館（愛知県北名古屋市熊之庄御榊）
- (6) 祐生出会いの館（鳥取県西伯郡南部町下中谷）
- (7) 丹嘉（京都府京都市東山区本町 22丁目）
- (8) 京都府立総合資料館（京都府京都市左京区下鴨 半木町1-4）
- (9) しろあと歴史館（大阪府高槻市城内町）

2 平成26年度資料調査（準備2年目，8施設）

平成26年度は，開催を次年度に控え，館長の指導の下，テーマ選定の考え方や基本コンセプト，全体のストーリーなどについて検討を重ねるとともに，借用資料の選定等の諸準備を進めた。

近年，他館で開催された昭和30年代をテーマとした企画展についての情報を集めたところ，昭和30年代の家電や日用品を展示する展示会では，映画会社が企画制作に加わり，映画のセットや人形を用いたジオラマなどで，当時の暮らしや街並みを再現していた。また，当時そこに暮らしていた人々の姿を撮影した画像等を展示するなど，開催地の特色を加えて開催し，好評を博していた。

しかし，当館の企画特別展が自主企画であることと，予算面からも検討を行った結果，映画セットやジオラマ等の借用は行わず，従来どおり資料とキャプションを中心とした展示を行う方向で準備を進めることとした。

資料調査に御協力いただいた博物館等を以下に記す。

- (1) 国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市城内町117）
- (2) 野球殿堂博物館（東京都文京区後楽1丁目）
- (3) 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館（東京都足立区綾瀬6丁目足立区綾瀬）

- (4) 宝塚歌劇・事業部（兵庫県宝塚市栄町1丁目1-57）
- (5) 広島市交通科学館（広島県広島市安佐南区長楽寺2丁目）
- (6) 大相撲博物館（東京都墨田区横網1丁目）
- (7) おもちゃのまちバンダイミュージアム（栃木県下都賀郡壬生町おもちゃのまち3丁目）
- (8) 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所（大阪府吹田市千里万博公園）

3 平成27年度資料調査（開催年，5施設）

平成27年度は，前年度までに調査を済ませた資料に加えて，追加借用を依頼する資料の調査を行った。また，ポスター・リーフレット・キャプション・図録に掲載する資料の中から写真撮影が必要となった資料については，担当者が借用先の博物館等で撮影を行った。

資料調査に御協力いただいた博物館等を以下に記す。

- (1) 広島市交通科学館（広島県広島市安佐南区長楽寺2丁目）
- (2) 昭和日常博物館（愛知県北名古屋市熊之庄御柵）
- (3) 学校法人川島学園鹿児島実業高等学校（鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町3591-3）
- (4) 南日本新聞社（鹿児島県鹿児島市与次郎1丁目9-33）
- (5) MBC 南日本放送（鹿児島県鹿児島市高麗町5-25）

第4章 諸権利への対応

展示，ポスター・リーフレット・図録等への掲載時に発生する著作権等の権利関係についての対応は，公益社団法人著作権情報センター（CRIC）から情報を得ながら，以下のように行った。

1 化粧品ポスターの展示と図録への掲載

- (1) モデルとカメラマンの許可を得て展示
- (2) 図録は不掲載

2 おもちゃなどキャラクター商品の展示と図録への掲載

画像掲載に係る使用料を求められたキャラクター商品は，予算上の都合で掲載を断念

3 レコードの展示と図録への掲載

- (1) ジャケットは展示，図録は不掲載
- (2) レコード盤は展示，図録へも掲載

4 歌詞のキャプション・図録への引用・掲載

一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）へ出版利用許諾書の交付を申請し，著作物使用料を支払い，引用と掲載を行った。

第5章 過去のアンケートから見えてきた傾向と課題，課題達成のための取組と成果

企画特別展に於けるアンケート調査は、過去の結果と比較するために、実施方法と項目について、以下のように揃えて実施した。

1 実施方法

- (1) 会場の入口で記入用紙を配布し、協力を呼びかける。
- (2) 会場出口付近に記入用机を設置し、筆記用具を添えておく。
- (3) 観覧者自身がアンケート回収箱に入れる。

2 項目

- (1) 性別（男，女）
- (2) 居住地（鹿児島市内，鹿児島市周辺，その他県内，県外）
- (3) 年齢（小学生，中学生，高校生，20歳未満，20歳代，30歳代，40歳代，50歳代，60歳代，70歳以上）
- (4) 広報（新聞広告，新聞広告，テレビ広告，ラジオ番組・ニュース，テレビ番組・ニュース，黎明館広報誌，ポスター，県広報誌，黎明館ホームページ，人から聞いて，黎明館来館時，その他）
- (5) 来館単位（家族，友人，グループ，一人，その他）

3 アンケート調査から見えてきた，傾向と課題，課題達成に向けての取組と成果

同時期に開催した企画特別展のアンケートを、過去3カ年・5項目について見直し、そこから見えてきた傾向と課題を以下にまとめた。

観覧日の総日数や時期が異なるなど、条件がすべて同じではなく、そのまま比較することは難しいが、目安として数字を記すこととした。

過去3カ年の中で観覧者数が最も多かった企画特別展は、平成24年度の「徳川将軍家と島津家」で8,809人。全観覧者に占めるアンケート回収率は、平成25年度の「島津重豪」が8.4%ともっとも高かった。

本年度開催した企画特別展の観覧者は9,220人で、平成24年度の113%という実績であった。

また、アンケートの回収率については19.1%と、過去3カ年で最も高かった平成25年度から10.7ポイントの上昇が見られた。

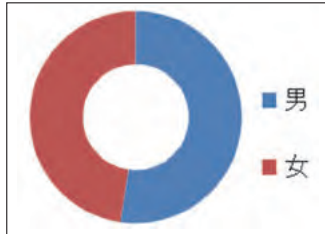
しかし、本年度の企画特別展は、本県で国民文化祭（10月31日（土）～11月15日（日））が開催されたことから、開催時期が2週間ほど早まったため、修学旅行の時期とずれが生じ、例年に比べて団体観覧者の減少傾向が見られた。一方では協賛事業として広報活動が例年に比べて活発化するなど、全国的なイベントが開催された影響から、これまでの企画特別展とは異なる条件の下で開催することになったことを記しておく。

(1) 性別

ア 傾向

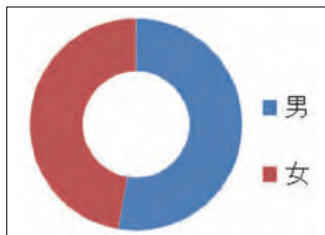
グラフ1～3によると、過去3カ年ともに男性の割合が50%を超えていることがわかる。

平成24年度「徳川将軍家と島津家」(グラフ1)



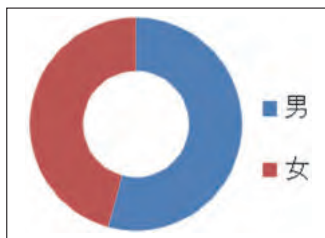
性別	男	52.3%
	女	47.7%
	計	100.0%

平成25年度「島津重豪」(グラフ2)



性別	男	52.7%
	女	47.3%
	計	100.0%

平成26年度「南からみる中世の世界」(グラフ3)



性別	男	54.2%
	女	45.8%
	計	100.0%

イ 課題

女性の観覧者を増やし、女性の割合を50%以上に引き上げることができないだろうか。

ウ 課題達成に向けての取組

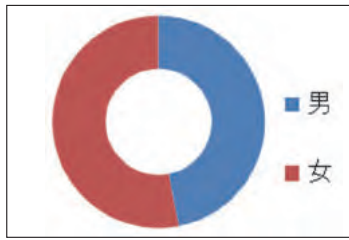
女性の視点から、次のア～オのように資料の展示内容を検討し、展示方法を工夫した。

- (ア) 目線を150cmに設定した、赤や黄色などの暖色を多用した綺麗な展示
- (イ) 化粧品関連資料、「ベルばら」の衣装、CA(キャビン・アテンダント)制服の展示
- (ウ) 少女マンガのキャラクター玩具の展示
- (エ) レトロ感あふれる家電の展示
- (オ) 当時人気のあったバンドのシングル盤レコードの展示

エ 成果

観覧者総数が増加し、女性の割合は53%と平成24年度より6ポイント上昇した。

平成27年度「SHOWA. 39～64」(グラフ4)



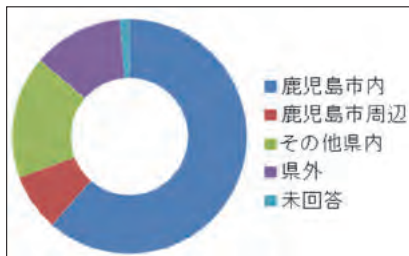
性別	男	46.9%
	女	53.1%
	未回答	0.1%
	計	100.0%

(2) 居住地

ア 傾向

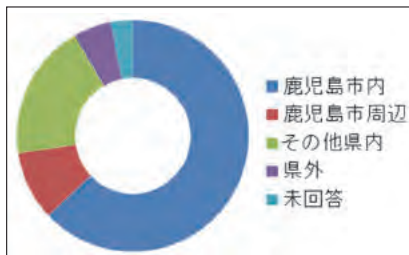
グラフ5～7によると、広報の中心である新聞広告・テレビ広告の伝わる地域が概ね鹿児島県内であるので、県内の観覧者の占める割合は85.2%～91.6%と高い割合で推移していることがわかる。

平成24年度「徳川将軍家と島津家」(グラフ5)



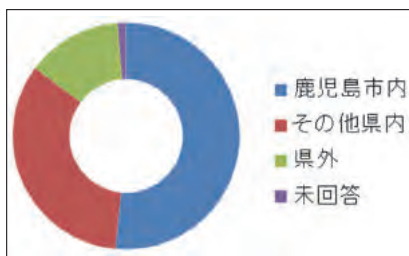
居住	鹿児島市内	61.4%
	鹿児島市周辺	7.8%
	その他県内	17.0%
	県外	12.4%
	未回答	1.3%
	計	100.0%

平成25年度「島津重豪」(グラフ6)



居住	鹿児島市内	63.0%
	鹿児島市周辺	9.6%
	その他県内	19.1%
	県外	5.3%
	未回答	3.1%
	計	100.0%

平成26年度「南からみる中世の世界」(グラフ7)



居住	鹿児島市内	51.5%
	その他県外	33.7%
	未回答	1.2%
	計	100.0%

※ 鹿児島市周辺の項目が無いいため、他の2カ年のグラフと、色分けは異なる。

イ 課題

今回も過去3カ年と同様に、県外向けの特別なテレビ広告・新聞広告は実施しておらず、県外からの観覧者数の大幅増加については考えにくい状況であった。そこで、県内の観覧

者の割合を95%以上まで高めることにより、観覧者数を増やすことはできないだろうか。

ウ 課題達成へ向けての取組

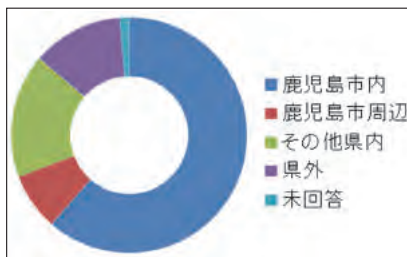
マスメディアを活用した県内全域への密度の高い広報と、観覧者の身近な人々に直接伝わる、口コミ効果につながる展示解説の回数を増やす。

エ 成果

今回、県内からの観覧者の割合は96.2%、県外からの観覧者の割合は最も低い2.4%であった。県内からの観覧者数の増加によって、県外からの観覧者の割合引き下げられたと考える。また、併せて県外からの観覧者が増えていない状況をも示していると推察する。

今後、平成28年3月26日の北海道新幹線開業により、乗り継ぎで北海道まで行くことができるようになり、交通事情にも変化がみられる。さらに、鹿児島空港と結ばれている上海・香港・台北からの観光客にとって魅力のある企画を織り込むことができれば、県外・国外からの観覧者増につながると考える。これからは、県外・国外からの観覧者を増やすことにより、高止まり続けている県内からの観覧者の割合を下げつつ、観覧者数を増加させることが必要であると考えます。

平成27年度「SHOWA. 39～64」(グラフ8)



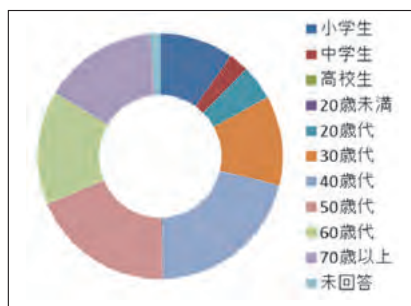
居住	鹿児島市内	63.9%
	鹿児島市周辺	12.3%
	その他県内	20.3%
	県外	2.4%
	未回答	1.1%
	計	100.0%

(3) 年齢

ア 傾向

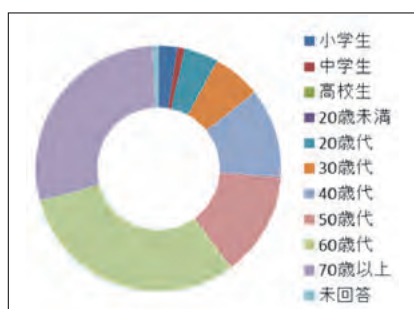
グラフ9～11によると、これまで60歳に満たない観覧者の割合は40%～68.7%で推移し、60歳以上の年齢層の観覧者が約60%を占めた企画特別展があるなど、概ね60歳以上の年齢層が強く支持している。

平成24年度「徳川将軍家と島津家」(グラフ9)



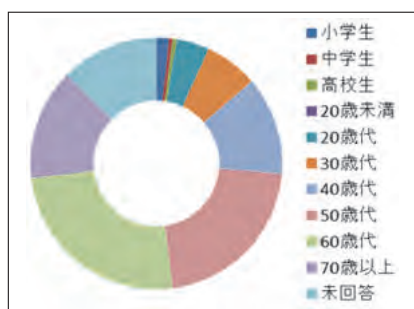
年齢	小学生	9.8%
	中学生	2.6%
	高校生	0.0%
	20歳未満	0.0%
	20歳代	4.6%
	30歳代	11.8%
	40歳代	20.9%
	50歳代	19.0%
	60歳代	15.0%
	70歳以上	15.0%
	未回答	1.3%
	計	100.0%

平成25年度「島津重豪」(グラフ10)



年齢	小学生	2.5%
	中学生	0.9%
	高校生	0.0%
	20歳未満	0.0%
	20歳代	4.5%
	30歳代	6.4%
	40歳代	11.8%
	50歳代	13.8%
	60歳代	30.9%
	70歳代以上	28.5%
	未回答	0.7%
	計	100.0%

平成26年度「南からみる中世の世界」(グラフ11)



年齢	小学生	1.6%
	中学生	0.5%
	高校生	0.5%
	20歳未満	0.0%
	20歳代	4.2%
	30歳代	6.8%
	40歳代	12.6%
	50歳代	21.6%
	60歳代	25.3%
	70歳代以上	14.2%
	未回答	12.6%
	計	100.0%

イ 課題

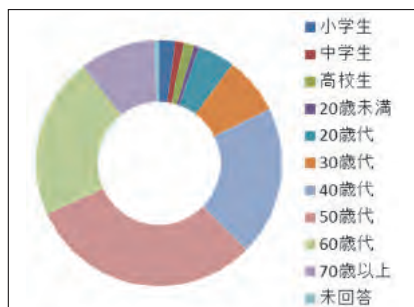
60歳以下の観覧者の占める割合を60%超まで引き上げることはできないだろうか。

ウ 課題達成へ向けての取組

40歳代～50歳代の観覧者については、自身が暮らしの中で実際に使用したであろう懐かしいモノを資料として観覧することができるので、観覧者数の増加を見込むことができるが、その世代よりも若い世代については、観覧意欲を高めることに繋がると予想する、レトロ感あふれる資料や、日本を代表する文化として世界が認めているアニメや特撮のブリティッシュ製のキャラクター玩具、少し昔の電子ゲーム等を展示した。

エ 成果

平成27年度「SHOWA. 39～64」(グラフ12)



年齢	小学生	2.1%
	中学生	1.1%
	高校生	1.4%
	20歳未満	0.7%
	20歳代	4.8%
	30歳代	7.6%
	40歳代	19.7%
	50歳代	30.8%
	60歳代	21.2%
	70歳代以上	9.9%
	未回答	0.1%
	計	100.0%

今回、60歳以下の観覧者の占める割合は68.2%を占めた。平成24年度と比べて0.3ポイントの減少でほぼ同じ、平成25、26年度からは20.3～28.3ポイントの上昇が見られた。より若い世代の増加を示しており、取組が一定の成果を上げたと推察される。

しかし、前述のとおり国民文化祭開催の影響で修学旅行の時期とずれてしまい、団体で来館する児童・生徒が見込めず、県内の児童・生徒は学業のため観覧可能な曜日が限られるなど条件的には恵まれていたとは言い難かったが、高校生以下が4.6%と低い割合を示したことは物足りない結果と言える。

要因としては、「観覧して初めて多くのキャラクター玩具が展示されていることを知った。」という回答も寄せられたように、予算面から検討した結果、若い世代が好む多くのキャラクター玩具の画像を、使用料を支払いポスター・リーフレット・新聞広告・図録・テレビCMに使用することをせず、ほとんどのキャラクター玩具の映像や画像は、広報に利用することができなかつた影響ではないかと推察する。

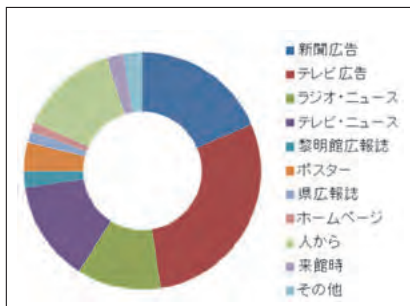
(4) 広報

ア 傾向

グラフ13～15によると、新聞広告の割合は19.7%～30.0%、テレビ広告が14.0%～26.1%、新聞広告とテレビ広告を合計すると33.7%～53.8%を占めるなど、毎回、新聞とテレビが広告の中心的役割を担っていることがわかる。

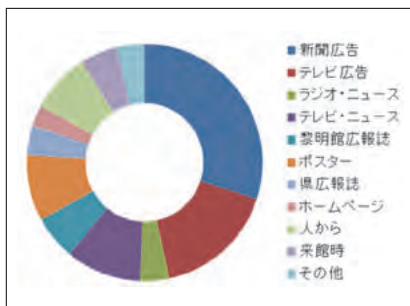
また、テレビ・ラジオのニュースなどを見て企画特別展の開催を知って観覧することを決めた人の割合は8.1%～14.3%を占めていた。それは、「人から」(口コミ)の情報で観覧することを決めた人の割合の7.1%～16.2%と、ほぼ等しい。

平成24年度「徳川将軍家と島津家」(グラフ13)



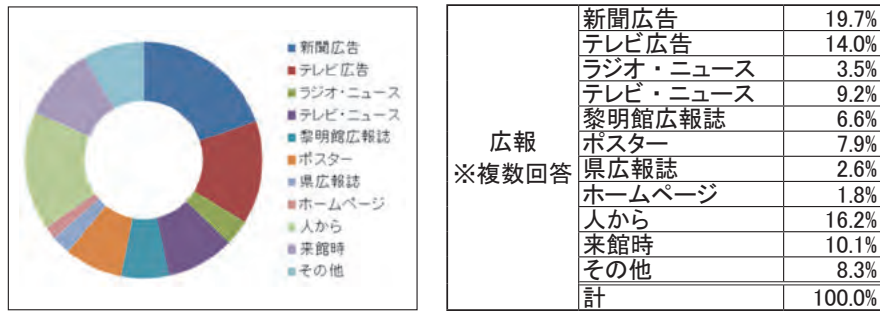
広報 ※複数回答	新聞広告	27.7%
	テレビ広告	26.1%
	ラジオ・ニュース	2.7%
	テレビ・ニュース	5.4%
	黎明館広報誌	5.4%
	ポスター	6.5%
	県広報誌	1.6%
	ホームページ	6.0%
	人から	7.1%
	来館時	9.8%
	その他	1.1%
	未回答	0.5%
計	100.0%	

平成25年度「島津重豪」(グラフ14)



広報 ※複数回答	新聞広告	30.0%
	テレビ広告	16.6%
	ラジオ・ニュース	4.0%
	テレビ・ニュース	10.3%
	黎明館広報誌	6.1%
	ポスター	9.0%
	県広報誌	4.0%
	ホームページ	2.8%
	人から	8.2%
	来館時	5.0%
	その他	3.9%
	計	100.0%

平成26年度「南からみる中世」(グラフ15)



イ 課題

(ア) 観覧者増のために、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を効果的に活用できないだろうか。

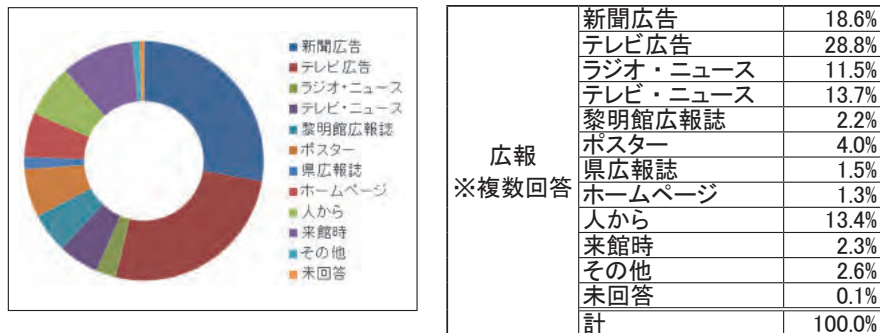
(イ) 音楽関連の展示とリンクした、テレビ広告を制作できないだろうか。

ウ 課題達成のための取組

広報の主力の一つであるテレビ広告のBGMは、企画特別展のテーマとした時代のヒット曲から選抜した。館長からのアドバイスも踏まえ、選考を進めた結果、1曲目がザ・ビートルズの「A Hard Day's Night」(昭和39(1964)年)、2曲目がザ・スパイダースの「あの時君は若かった」(昭和43(1968)年)、3曲目はザ・ローリング・ストーンズの「(I Can't Get No) Satisfaction」と決めた。

また、観覧者が観覧後に、情報を発信することができるよう、可能な範囲で撮影を認めた。

平成27年度「SHOWA. 39～64」(グラフ16)



エ 成果

昨年度までは、新聞広告に次ぐ割合を示していたテレビ広告が、今回は新聞広告を10ポイントほど上回っていた。

今回の企画特別展は、ニュース以外でも、南日本放送 (MBC) の鹿児島をテーマに様々な情報を幅広く取り上げる番組において、初めて企画特別展が紹介された。さらに、ラジオでは、生放送時間中に担当者自らが企画特別展の内容と面白さをアピールする時間を得ることができた。これらのテレビ・ラジオに関連した広告やニュース等で企画特別展の開催を知った観覧者の割合の合計が54.0%を占め、過去3カ年で最も高かった平成24年度の

34.2%を、19.8ポイント上回る伸びを見せた。

しかし、黎明館広報誌・ポスターなどがポイントを下げるなど、新聞を除く紙媒体による広告に、目立ったポイントの上昇が見られなかった。

今回、特筆すべきは「人から」が13.4%と、テレビ・ニュースに次ぐ高い割合を示したことである。要因として、担当者が会場で観覧者を前に企画特別展のねらいや、面白さなどを説く「展示解説」を合計10回（ポスター等で予告して9回、サプライズで最終日に1回）実施したことも挙げることができる。「展示解説で詳しい話が聞けて良かった。」などの感想も寄せられており口コミ効果につながったと推察する。

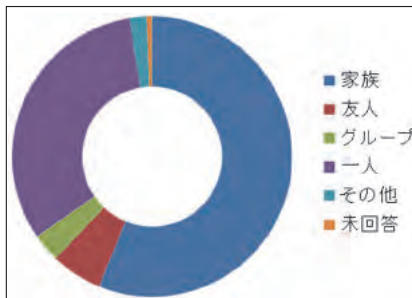
また、観覧者による口コミとも言えるSNSを用いた情報発信の活性化に備えて、お茶の間、CA（キャビン・アテンダント）の制服、「ベルばら」の衣装の3カ所（画像38～40）に、撮影ポイントを設けるなどの対応を行った結果、観覧者によると思われるウェブサイト上への書き込みが幾例も確認できた。

(5) 来館単位

ア 傾向

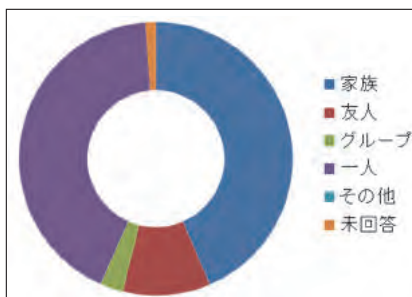
グラフ17～19によると、一人で観覧する観覧者が32%～58.6%と高い割合を示していることがわかる。

平成24年度「徳川将軍家と島津家」（グラフ17）



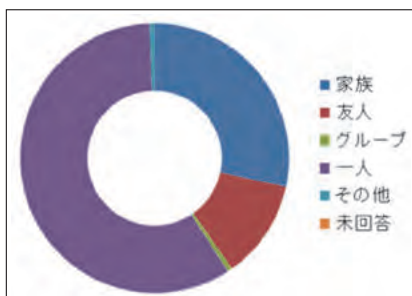
来館単位	家族	56.2%
	友人	5.9%
	グループ	3.3%
	一人	32.0%
	その他	2.0%
	未回答	0.7%
	計	100.0%

平成25年度「島津重豪」（グラフ18）



来館単位	家族	43.6%
	友人	10.3%
	グループ	2.7%
	一人	42.1%
	その他	0.0%
	未回答	1.3%
	計	100.0%

平成26年度「南からみる中世の世界」（グラフ19）



来館単位	家族	28.4%
	友人	11.8%
	グループ	0.6%
	一人	58.6%
	その他	0.6%
	未回答	0.0%
	計	100.0%

イ 課題

家族や友人など、複数で観覧したくなるような展示と広報を行うことはできないか。

ウ 達成のための取組

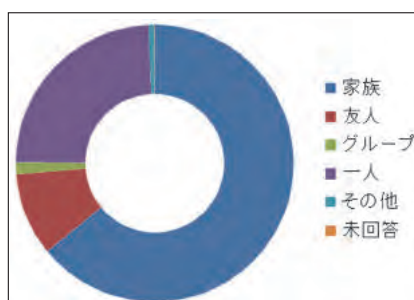
男女のペアで訪れても、どちらか一方が退屈するような展示は行わず、展示見取り図の作成の段階から女性職員が参加し、資料の配置や展示方法についても女性目線を反映した。また、副題に「一語り継ぐ記憶―」、リーフレットに「大切な思い出を大切な人へ語り継いでみませんか。」の文言を盛り込むなど、親しい人同士、複数での来館を勧めた。

エ 成果

一人で観覧した観覧者の割合は、24.1%であった。それは、過去3カ年で最も低かった「徳川将軍家と島津家」の32.0%を8ポイント近く下回る結果であった。開催期間中も複数での観覧を促す広報活動を行っており、会場でも家族や友人と思い出を語り継いでいる様子を度々目にすることができた。

団塊の世代やバブル世代などの、昭和を若者（ヤング）として生きた人々が、東京オリンピック以降の暮らしの変化や流行を語り継ぐことができる展示、大切な人と一緒に語らいながら観覧したいと思えるような展示とすることでできた成果と推察する。

平成27年度「SHOWA. 39～64」（グラフ20）



来館単位	割合
家族	63.7%
友人	9.7%
グループ	1.4%
一人	24.4%
その他	0.7%
未回答	0.1%
計	100.0%

(6) 主な御意見・御感想など

ア アンケートより

(ア) 展示資料

- ・大変貴重な資料を見ることができてよかった。
- ・資料の保存状態がよく、感心した。
- ・芸術作品の展示もよいが、ひと味違った、人々に感動を与えるような展示会でよかった。
- ・東京オリンピックのロゴを見られてよかった。かっこよかった。
- ・『ベルサイユのばら』の衣裳が豪華で驚いた。
- ・自分や家族などが写っている写真があり、驚いた。懐かしかった。
- ・シンプルでかっこいいデザインのものも多く、見入ってしまった。
- ・展示内容や資料数に偏りがあり、素通りしたコーナーもあった。
- ・県民に呼びかければもっと多くの資料があるはず。

(イ) 展示方法

- ・映像が流れたり、家族で楽しめる展示資料だったり、これまでの黎明館の展示と異なる傾向だと感じた。数年に一度はこのような展示があってもよいと感じた。
- ・ジャンル別に展示されていて見やすかった。
- ・時代の流れがわかりやすかった。
- ・撮影できる場所があってよかった。

(ウ) 展示解説

- ・展示解説がユーモアに溢れていて分かりやすく、楽しみながら観覧できた。
- ・展示解説で詳しい話が聞けてよかった。

(エ) 要望

- ・スチュワーデスの制服を着てみたかった。
- ・展示場のスタッフに当時の衣裳・制服などを着てほしかった。
- ・洋服やファッションの展示もほしかった。
- ・本物の車も展示してほしかった。
- ・触れられる資料もあればよかった。
- ・当時の音楽やテレビ番組を展示場で流してほしかった。
- ・当時の写真や映像がもう少しあればよかった。
- ・当時の食べ物や給食などの展示がもっとあればよかった。
- ・もっと多くの資料を見たかった。

(オ) 感想

- ・自分が生まれる前の時代のもものだったが、父母に教えてもらいながら見られてとても楽しめた。
- ・子どもや孫に昔を語り継ぐいい機会になった。
- ・一緒に来た夫や妻・友人などと当時を思い出して盛り上がった。
- ・父母や祖父母がとても喜んでいたので、連れてきてよかった。
- ・当手を思い出して懐かしかった。
- ・高校総体で集団演技をしたことを思い出し、とても懐かしかった。
- ・他の観覧者の方たちが当時の話を懐かしそうに話しているのがよかった。
- ・他の観覧者の話し声が気になった。
- ・懐かしかったが、テーマが不明瞭。

(カ) その他

- ・昭和をテーマにした常設展示をしてほしい。
- ・また同じような企画をしてもらいたい。
- ・料金が高く、入ろうか悩んだ。

イ 会場監視員日誌より

- ・撮影ポイントでの写真撮影が増えています。「御一緒にお撮りしましょうか?」とお声

かけしたら、御案内もスムーズになりました。

- ・ C A マネキンと記念撮影された40代女性2人組のお客様「このユニフォーム試着できたら最高ですよー。」と笑っておられました。本当に憧れの職業だったそうです。
- ・ 70代御夫婦、遠距離恋愛だったそうで、大阪で待ち合わせして、3日間の万博デートをしたそうです。パビリオンに4～5時間もならび、中に入ったそうです。嬉し恥ずかしの思い出に出会えて良かったとお話しされていました。
- ・ 昨日、お子様が小学校の課外授業で見学し、大変楽しかったと話されたそうで、今日は御高齢の御両親と御来場されました。昔話をされながら進まれました。
- ・ 本日2度目の御来場の女性のお客様が、C AのユニフォームにANAのものが増えたこと、お客様から寄せられた貴重なお写真を展示していることに気付いてくださりました。お喜びの御様子でした。

第6章 ホームページを活用した画像提供の呼びかけ

今回の企画特別展では、当館として初めてとなる、ホームページを活用した画像提供の呼びかけを行った。期間中5名から提供の申出があり、次のようなキャプションを付して展示した（画像41）。

- 1 「唐湊から見る鹿児島市内と桜島」(撮影：昭和61年・鹿児島市唐湊（鹿児島大学学生寮）)
- 2 「力闘」(撮影：昭和39年・鹿児島市（市立武小学校東側）)
- 3 「我が家にパブリカがやってきた！！」(昭和46年頃・出水市)
- 4 「聖火リレー・いづろ交差点にて」(昭和39年・鹿児島市)
- 5 「或る日11p.m.頃 エキスポランド」(撮影：昭和45年・日本万国博覧会会場)

会場では、当時の暮らしを身近に感じることができる画像に注目する多くの観覧者の姿を見かけた。

しかし、アンケート結果を見てみるとホームページを見て観覧を決めた人の割合が1.3%と低いことから示されるように、ホームページからの情報が観覧の動機付けとなりにくい状況の中で、ホームページだけで提供を呼びかけていたことがわかった。今後は、観覧や提供の動機付けとなるようなホームページの制作や、紙媒体の広告も含めた告知の方法についての検討を行いたい。

第7章 東京オリンピック以降の昭和時代の資料の位置付け

これまで、戦後に大量生産された昭和時代の製品が、資料として当館に寄贈されることは少なかった。本企画特別展において、東京オリンピックの頃のお茶の間を再現することを試みたが、わずか6畳の空間を、当館の資料のみで再現することができず、北名古屋市歴史民俗資料館からの借用資料と併せて展示することで、ようやく可能となった。

大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会の中で、どの家庭でも同じようなモノを日常的に使い、

新製品が発売されたり故障したりすると、文化財としての希少価値が見いだされる前に廃棄され続けてきたためである。

今後は、東京オリンピック以降の昭和時代の資料である家電や日用品などについても、都市民俗学の視点から、当時の暮らしを再現するために必要不可欠な資料と位置付け、また、当時の世相を反映した資料として、現存する資料が極端に減り収集が困難になる前に収集しておきたいと考える。

おわりに

近頃、昭和時代に対してのノスタルジーや憧れからか、昭和レトロの文字を見かけることが増えてきた。これからも、当館が開催したような戦後の昭和をテーマとした展示会も各地で行われ続けるであろう。また、コレクターや愛好家の間では、驚くほどの高値でブリキのおもちゃが取引されたり、真空管を使って製造された古いアンプが、トランジスタを使用した新品よりも音が良いと評価されて価格が高騰するなど、様々な分野で少し昔の製品に対して、希少価値に加えて、別な評価と価値が付加されてきている。それと同じくするように文化財としての扱いにも変化がみられるようになってきた。

当館でも平成24年度以降、カセットテープ、昭和20～40年代当時の暮らしぶりを撮影したネガ、昭和20～30年代のマッチラベルのコレクションなどが寄贈され、資料数にも増加傾向が見え始めた。

この企画特別展の開催を契機に、当時の家電や玩具などの様々な製品が生活史を彩る貴重な資料であることを情報発信し、「館の主体性を持った能動的収集（田井2009：41）」が継続的に行えるように取り組んでいきたい。

【謝辞】

企画特別展開催に当たり、多くの方々に、お世話になった。また、本企画特別展開催に向けて、過去の企画特別展から多くの貴重な情報を得ることができた。関係者各位に対し、改めて感謝を申し上げます。

（担当者：学芸専門員 吉井秀一郎・切原勇人、資料調査編集員 飯伏美朝）

参考文献

- 『博物館資料の資源化—昭和日常博物館の可能性—』（北名古屋市歴史民俗資料館 2007年）
『昭和ワンダーランド～モノでたどる戦後～』（石川県歴史博物館 2007年）
吉見俊哉『ポスト戦後社会—シリーズ日本近現代史(9)』（岩波新書 2009年）
田井静明「『近くてなつかしい昭和』と博物館・資料館」（『近くてなつかしい昭和展—夢・希望・未来を見つめた日々—』香川県立ミュージアム 2009年）
『昭和の暮らしに学ぶ—学習教材としての展示—』（北名古屋市歴史民俗資料館 2010年）

（よしい しゅういちろう 本館学芸専門員）

図版1



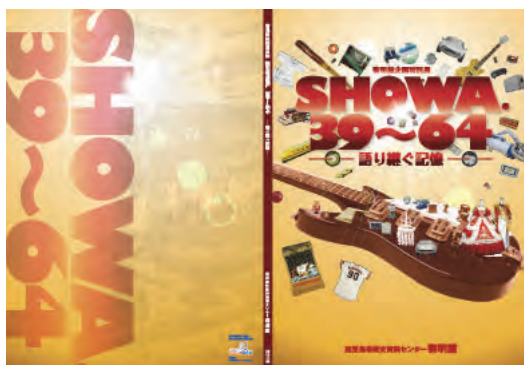
ポスター (画像1)



リーフレット表 (画像2)



リーフレット中 (画像3)



図録① (画像4)



図録② (画像5)

図版2



講演会① (画像6)



講演会② (画像7)



展示解説講座 (画像8)



シンポジウム① (画像9)



シンポジウム② (画像10)



展示解説① (画像11)

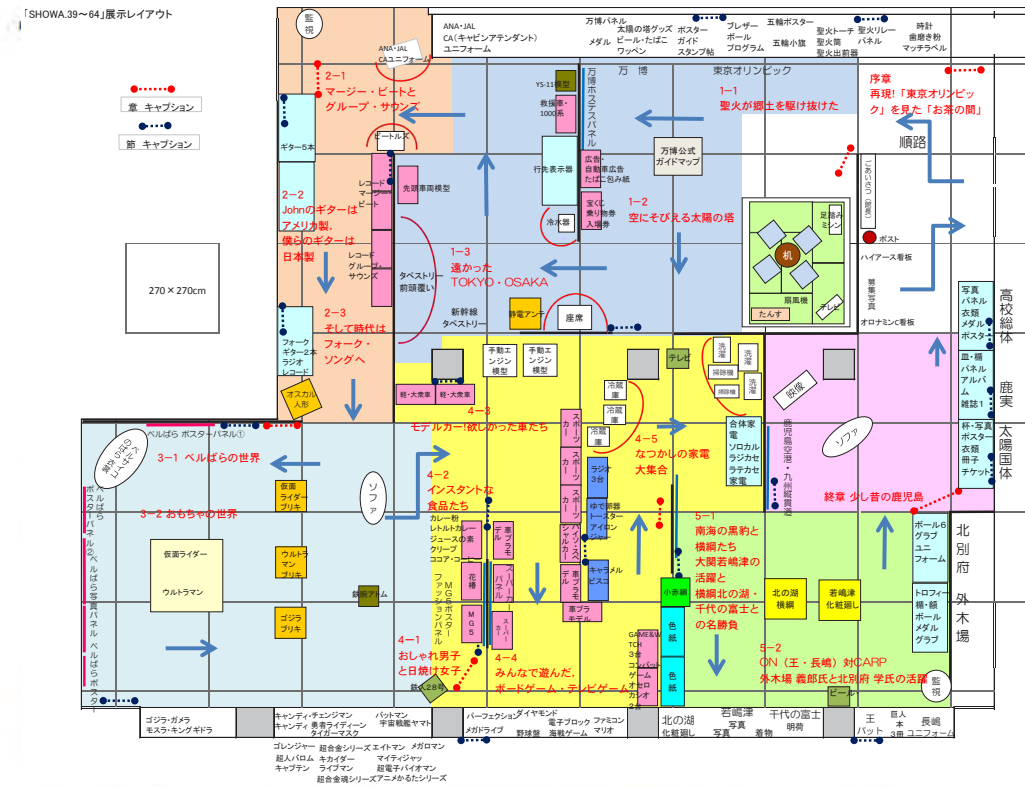


展示解説② (画像12)



展示解説③ (画像13)

図版3



資料配置図



会場出入口の展示 (画像14)



序章の展示 (画像15)



第1章の展示① (画像16)



第1章の展示② (画像17)



第1章の展示③ (画像18)



第1章の展示④ (画像19)



第1章の展示⑤ (画像20)



第2章の展示① (画像21)



第2章の展示② (画像22)



第3章の展示① (画像23)



第3章の展示② (画像24)



第4章の展示① (画像25)



第4章の展示② (画像26)



第4章の展示③ (画像27)



第4章の展示④ (画像28)



第4章の展示⑤ (画像29)



第5章の展示① (画像30)



第5章の展示② (画像31)



第5章の展示③ (画像32)



第5章の展示④ (画像33)



終章の展示① (画像34)



終章の展示② (画像35)



終章の展示③ (画像36)



終章の展示④ (画像37)



撮影ポイント① (画像38)



撮影ポイント② (画像39)



撮影ポイント③ (画像40)



提供写真の展示 (画像41)